

# 木もれ日 通信

K o m o r e b i T s u s h i j i

第60号

平成29年1月  
つきだて花工房発  
季刊誌

◎つきだて花工房は木もれ日のようなぬくもりと  
やさしさを持ち続けるみなさまの公共施設を目指します。

いつの間にか焚き火の風景はなくなっても  
垣根の山茶花は今年もまた花を咲かせる

童謡に焚き火という歌がある。風景描写を見てみると、田舎というよりは、ある程度家屋が建ち並ぶ町屋が舞台のように思われる。もちろん、道路はまだ舗装などされていなかっただろう。ところどころ、立木が葉を落とし、垣根が続く道。自動車を通ることなど稀なことだったのではないだろうか。

歌は昭和16年に発表された。その頃は、いや、昭和40年代頃まではそんな家並みの町では、焚き火がまだ許容されていたに違いない。

今では野焼きも禁止されて、農村でも焚き火に偶然行き当たることなどまずなくなってしまった。しかもここで歌われているのは「落ち葉焚き」である。今どき、落ち葉はゴミ袋につめて、可燃ゴミの日に出されるのが関の山だ。落ち葉焚きも遠い昔の話になりつつあるのだ。

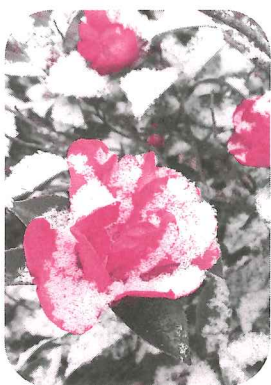
今や子どもの遊びと言えばテレビゲームやタブレット、スマホのゲームといった室内遊びばかり。寒風に吹かれて頬を真っ赤にして青ばなを垂らしているような子供など見えない。しもやけのかゆさや、泥遊びで切れたあかぎれの痛みがわかる子供もいないだろう。童謡はどんどん「子供」を離れ、「かつての子供」に独占されつつあるようだ。

曲がり角の垣根はサザンカの垣根だったのだろう。色彩の乏しい冬、サザンカの赤い花はひときわ目立

つ。焚き火の煙と匂いが垣根の向うから漂ってくる。曲がり角を曲ると落ち葉焚き。落ち葉の山に見える隠れる炎の色は、サザンカの花の色とダブって見えただろうか。

サザンカはツバキ科の常緑広葉樹。秋の終わりから冬にかけて花を咲かせる。木々がすっかり葉を落とし、焚き火が盛んに行われていた季節にぴったりだ。野生種の花は淡い桃色を交えた白い花だそうだが、まだ見たことはない。やはり、生け垣として植えられている園芸種を、一般的には目にする。漢字では「山茶花」と標記される。本来はその読み通り、「さんざか」と呼ばれていたが、いつのころから言い間違いの「さざんか」が市民権を得て、本家が駆逐されてしまったらしい。

名前に入っている「茶」の文字の通り、お茶の木もサザンカ同様ツバキの仲間である。これらツバキ科の木にはチャドクガという蛾がつくことがある。卵の時から成虫に至るまで毒のある毛を持つ。触ればもちろんだが、近くにいっても皮膚炎を起こすことがあるので注意したい。



# お客様ノオト

このノートはたくさんのお客様の笑顔と思いが詰まったつきだて花工房の宝石箱です



## ◆伊達市健幸都市づくり課様 (伊達市)

年間5回に渡り開催された、リフレッシュコースの最終日にご利用になった保原・月館地区の皆さんです。「動・食・楽」をテーマに1日を過ごされました。交流館もりもりにてクラフト体験もされました。



## ◆皇居勤労奉仕団様 (伊達市)

昨年10月頃、皇居へ清掃のご奉仕にいらっしゃったお仲間にご利用されました。秋晴れの中、カラオケや花工房の周りの散策を楽しめました。



## ◆月館中野球部様 (月館町)

部活動を終了し、それぞれの道に旅立つ3年生と後輩の皆さん、保護者の方々と、今まで共に活動してきた思い出と送る言葉を交わし、時間を忘れるほどに熱く語っていらしゃいました。スポーツを通じた仲間は一生の友。大切にしてくださいね。



## ◆三五会様 (伊達市)

保原高校3-5組を卒業され、毎年11月22日に桑折町のうぶかの郷さんと花工房を交互にご利用になり、同級会をされているみなさまです。恩師と一緒に、仲の良い男性陣でお泊りいただきました。



## ◆つきだて会様 (月館町)

元月館町収入役の、松浦武夫様の「瑞宝双光章受章」を祝う祝賀会が開催されました。松浦様は、花工房初代所長でもあり、花工房とは縁の深い方です。温厚で頼りがいのある人柄は誰もがご存知かと思えます。支える奥さまの幸子様とともに素敵なお夫婦です。本当におめでとうございます。



## ◆ドライフラワーリース作り

東和地域グリーンツーリズム推進協議会の皆さんが、新しく体験に加わったリース作りをされました。花工房で育てた花のドライフラワーに木の実などを加えて、素敵なリースが出来上がりましたね。



## ◆フォトフレーム作り

枠組みから作るフォトフレーム。伊達市連合婦人会保原連絡協議会のみなさんが、木の実を飾り、思い出の作品を作られました。持ち帰られたフレームにはどんな写真が飾られたでしょうか？

## 季節の一品 蒸し塩豚



A	豚バラブロック	500g
	塩	15g
B	長葱 (青首の部分)	1本
	生姜 (スライス)	1片
	紹興酒 (又は日本酒)	30cc
	水	400cc
C	醤油	大さじ3
	酢	大さじ1
	ゴマ油	少々
	砂糖	少々
	にんにく (すりおろし)	適量

- ① 材料Aの豚バラに塩を全体にふりかけて揉み込み、ラップに包んで一晩置く。
- ② 耐熱容器に豚肉とBの材料を入れ、クッキングペーパーをかぶせ、ラップで密閉する。
- ③ 蒸し器に②を入れ、強火で45分蒸す。ラップをしたまま自然に冷ますことで、肉がしっとり仕上がります。
- ④ Cの調味料を合わせ、スライスした塩豚にかけてお召し上がり下さい。

## 厨房のイチオシ!

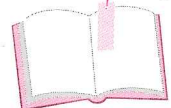
調理場より、冬のお膳のご紹介です。今回は寒ブリや白菜など冬の食材に加え、地元元産の手作りこんにゃくや、リンゴを蜜煮にしたコンポートなど、地産の食材と旬の食材を取り入れた内容となっております。その中で今回、メイン料理として、伊達鶏のだしをベースにした、旨みたっぷりの鍋をご用意いたしました。他にも冬ならではの食材をたっぷり使った冬のお膳、ぜひご賞味ください。

## オリジナルの音楽と共に

### 朗読会

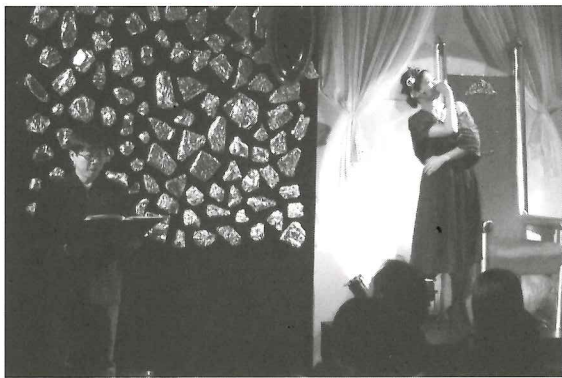
20周年を迎えた今年の朗読会、今回はさまざまな試みが登場しました。オープニングを飾ったつぎだて花工房リーディングアラウドの会による「白雪姫と七人のこびと」では来場者が急遽参加しました。続く朗読劇でお送りした「つぐみのひげの王様」では3人の若手俳優が登場、男性ボーカルの朗々とした響きも楽しめました。

岡さん作詞、音楽を担当した古後さん作曲によるオリジナルソング「明日へ未来へ」を、花工房スタツフが合唱。20周年を迎えることができた感謝とこれからの決意を歌に託しました。



## 一貫張り作品展開催

一貫張り教室は開始から六年、いったん体験してみるとすっかりはまってしまい、ずっと継続されている方も多い体験教室です。この一貫張り教室の先生・生徒の皆さんの作品を一同に展示した「貫張り作品展」は昨年12月5日から12月17日まで開催。こちらも冬の恒例行事になり、今年も小さな会場に所狭しと、様々な作品が並びました。貼る和紙に書かれた文字の書体や、生地などで様々な表情を変える作品たちは、眺めていても「飽きる」ことがありませんでした。



メイン作品の「さがしもの」は岡さんの独壇場。「おぼあちゃん」の「本を探して」という言葉に翻弄されながらたどり着いた書店店員という職に生きがいを感じ始めた女性の気持ちの変化が、朗読を通して鮮やかに描かれました。そして最後にはこの日のために島



日々の暮らしにハーブの香りを〜ハーブ教室・今後の予定  
2月27日(月) 「ハーブコスメ」ハーブのリップクリーム作り  
3月27日(月) 「春のハーブガーデニング」ハーブ開き寄せ植え

講師：瀧田 勉先生 (ハーブとスローライフの研究者)  
参加費：1,800円 (材料費・税込)

## 花々日記

唱歌 〈今は昔〉

ストーブとコタツで快適な部屋を抜け出し、意を決して夜の戸外に出てみます。頭上には瞬く星たちまるで降るように。地上の光は点在する家々の電灯やほとんどない街灯、そして時々通り過ぎる車のヘッドライト。ピンと張り詰めた冬の田舎の夜は、星空を楽しむには最高です。「木枯らし途絶えてさゆる空より地上に降り敷くくすしき光よ…」頭の中に浮かんでくる歌は文部省唱歌「冬の星座」。文語体の美しい言葉が使われ、簡潔に冬の夜空の美しさが伝わります。

春の唱歌なら、例えば「春の小川」や「おぼろ月夜」。夏なら「夏は来ぬ」「われは海の子」など。秋は「赤とんぼ」「旅愁」…。冬なら「冬景色 (さ霧消ゆる湊江の…)」。他にもまだまだあると思います。いずれの楽曲も文語体で、その季節の、そのシチュエーションの情景が美しく表現されています。モデルになった場所はあるにせよ、特定の場所が歌われるのではなく、歌う人それぞれが自分の胸にある景色を思い浮かべることができる。多くの人に歌い継がれているのは、そんな理由があるからかもしれません。

ところで、「船頭さん」という童謡があります。小さい頃に「おらのわたしのせんどうさんは…」という歌を聴いて「わたし」の意味がわからなかった覚えがあります。川の「渡し」という交通手段がある、ということを知ったときに、この歌の詞がようやく腑に落ちました。そんな視点で先の唱歌を眺めてみます。美しい文語体は反面、難解でもあります。それもさることながら、そこに歌われている情景は、今や日本国中、どこへ行っても見ることができなくなっているものも少なくないでしょう。「小川」自体がなくなりました。もちろん、めだかや小鮒など、自然環境下で目にするのはまずないでしょう。「煙たなびくとまや」も、言葉からどんなものを想像することはできません。「十五でねえやは嫁に行き」この頃は数えだったでしょうから今なら十三くらい、あまりにも早くお嫁入りした少女の思いは想像もつきません。かつて子供たちの歌であった唱歌は、今やある程度お年を召した方の愛唱歌になりつつあり、いずれば消えて行くのでしょうか。歌われている情景がなくなっていくのだから、それも仕方ないこと。当たり前だったものの美しさは、歌う人それぞれの唱歌の中に生きているのです。

春の息吹を旬の食材にこめて

# 梅見月会席 「きさらぎ膳」

ご予約  
お待ちしております

平成29年2月15日・16日・17日 限定

大切な方の喜ぶ顔を見たいから—

●各日午後6時より

あちこちを走り回って食材を集め、丁寧に、心を込めて手をかけて。

そんなお料理が、皆さまの「大切な方」に笑顔を運んでくれますように。

今回は熊本をはじめとして、自然災害による大きな被害を受け、復興を目指す地域からも食材を取り寄せています。東日本大震災のときに差し伸べられた支援に少しでも応えるために、私たちができることのひとつとして。

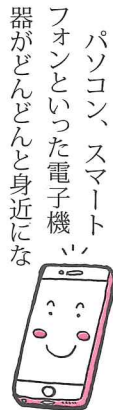
お一人様 5,400円 (税込)

※ご予約が必要です。

※2名様以上でお申し込み下さい。

お得な宿泊プランはお一人様 8,800円より

## ネットも子エック!



パソコン、スマートフォンといった電子機器がどんどんと身近になりつつある現代ですが、花工房でもホームページを開設しています。さまざまなイベント情報や、時にはお得な情報もインターネットを通じてお届けしています。また、ツイッターやフェイスブック・ページでは近く開催予定のイベントなどの情報も発信。動画など、ネットならではの内容も満載です。そしてこのたび、交流館もりもりで開催している体験プログラムや月館の地域情報を詳しく知ることができるようページがリニューアルしました。ここでは「ふるさと月館」の農産物のお取り寄せができる通販ページもあります。詳しくは「つきだてイズム」のホームページへ。つきだて花工房のトップページの右側にある「つきだてイズム」のバナーをクリック!



つきだて花工房の宿泊プランは「じやらんnet」「楽天トラベル」「るぶトラベル」でも販売しています。ポイントも貯めたり使ったり、何よりネット限定のプラン(時期により異なります)の販売もしています。ぜひチェックしてみてくださいませ。

## キャンペーン情報 米

◆直売所「やさしい工房」ではただ今、「月館米試食キャンペーン」を実施中。試食してみたい方は氏名・住所、電話番号と「お米試食希望」とご記入の上、木もれ日通信編集部(住所はつきだて花工房)までがきでお申し込み下さい。2月3日必着です。抽選で20名様に月館産のお米1kgをやさしい工房よりプレゼントします。なお、当選の発表は商品の発送をもって替えさせていただきます。

◆また、2月20日まで、やさしい工房で3000円以上お買い上げの方には宅配送料サービス実施中。この機会にぜひご利用下さい!

## お客様の声

◆①案内板の設置場所と大きさを配慮して頂けたらと思います。  
②部屋にドライヤーを設置してほしい。(伊達市K.S様)

「フロントより」

①ご不便をおかけして申し訳ございません。少しでもわかりやすくなるようにしていきたいと思っております。②ご意見ありがとうございます。フロントに貸出ドライヤーをご用意させていただきますので、お気軽にご用命下さい。また、客室インフォメーションに、その旨ご案内を入れさせていただきます。

木もれ日通信ではみなさまからのお問い合わせを随時募集しております。郵便またはメールでも受け付けております。ぜひお寄せ下さいませ。



## 木もれ日60号プレゼント

「イノシシ革使用 Bナスキーホルダー」



5名様にプレゼント

ご希望の方は官製はがきに住所氏名、電話番号、年齢と木もれ日通信60号で印象に残った記事および感想をご記入の上、プレゼント応募券を貼ってつきだて花工房までお送り下さい。平成29年3月25日の消印まで有効です。なお、ご記入頂いた個人情報につきましては花工房が責任を持って管理・保管し、当館のご案内をお送りするほか、サービス向上のために利用させていただきます。

木もれ日通信59号プレゼント当選者  
川俣町 齋藤 恵二 様  
千葉県 米田美津子 様  
二本松市 服部 保 様

## 編集後記

◆今春、飯館村は一部を除き全村帰還。長すぎた六年という時間を少しでも取り戻せますように。(つきはな)  
◆ご不幸の知らせが多く寄せられ、自分も年を重ねてきたのだなとつくづく思う。今年も西年三歩歩いて忘れたりすることがないように心掛けたい! (幸)

◆新年を迎え、身の引き締まる思いです。笑う門には福来る。花と笑顔溢れる花工房。今年も皆様のお越しを心よりお待ちしております。(あか)  
◆早くも、庭先でふきのとうを見つけてました。なんだか食べてしまうのがもったいない気がして、そっと眺めています。(厚)

ムーンセラピー 月の明かりで疲れた心を癒したい。いまずくカレンダーにチェック!!

2/11(土) 2/26(日) 3/12(日) 3/28(火) 4/11(火) 4/26(水)

休館日 2/14、3/7、4/18 (全て火曜日)

木もれ日通信60号 読者プレゼント 応募券